

第16回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和4年1月7日(金)
開会13時30分 閉会16時11分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|------------|
| 教育長 | 鍵本 芳明 |
| 委員(教育長職務代理者) | 上地 玲子 |
| 委員(教育長職務代理者) | 服部 俊也 |
| 委員 | 梶谷 俊介 |
| 委員 | 田野 美佐 |
| 教育次長 | 池永 亘 |
| 教育次長 | 梅崎 聖 |
| 学校教育推進監 | 平田 善久 |
| 教育政策課 | 課長 大西 治郎 |
| | 副課長 江草 大作 |
| | 総括主幹 土井 隆史 |
| 財務課 | 課長 遠藤 圭一 |
| 教職員課 | 課長 大重 義法 |
| 保健体育課 | 課長 山本 圭司 |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 協議事項
- (1) 令和4年度当初予算要求について
 - (2) 令和5年度岡山県公立学校教員採用候補者選考試験について
- 6 報告事項
- (1) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

7 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。本日の議題のうち、協議事項（１）は、今後、議会との協議を要するものであること、協議事項（２）は教育行政の公平性を確保することから、教育委員会会議規則第１２条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。協議事項（１）（２）は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙 手

(教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決した。

報告事項（１）令和３年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

・保健体育課長から資料により一括説明

(委員)

調査種目が何年も全く変わらないにもかかわらず、年度ごとに点数が増減する理由は何か。

(保健体育課長)

今年度については新型コロナウイルス感染症の影響であることは間違いない。それまでの理由としては、例えば中学女子では、以前は低迷していたが、最近向上傾向にあるのは、ここ数年で、国が主体で体力向上の取組の支援を行っていることが要因として考えられる。

(委員)

平成３０年度調査時に小学校５年生男子の点数は全国と比較して０．１点しか差がなかったが、３年後の中学２年になる今年度調査では全国と比較して０．７点も差を広げており、全国平均で見ると良い結果となっているが、何か取組を行った

のか。

(保健体育課長)

中学校に入り、部活動にしっかりと取り組んでいることが要因として考えられるが、明確な理由は不明である。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない令和元年度の調査においても点数が減少しているため、新型コロナウイルス感染症の影響は理由にならないのではないか。

(保健体育課長)

新型コロナウイルス感染症の影響は数値の減少に拍車がかかった主要因の一つとして捉えており、以前からの要因としては、運動が好き、嫌いの二極化が進んでいることも挙げられる。

(教育長)

岡山県では、小学校は握力・長座体前屈、中学校はシャトルラン・上体起こしの点数が悪い傾向が過去から続いているが、小学校から中学校に上がることで点数の低い種目に変化する理由を分析しているものの、明確な理由が分かっていない。

(保健体育課長)

点数の低い種目の変化については有識者に意見を聞いても明確な理由が不明である。握力については校庭に鉄棒が減ってきたり、雑巾絞りをしたりすることが減っていることなどが考えられるが、全国も同様であり岡山県に限った話ではない。長座体前屈は中学に入り、部活動で準備運動やストレッチの正しいやり方を学習することなども要因ではないかと考えられる。シャトルランについては「もう1往復頑張る」などの気持ちの面も大きいと考える。

(教育長)

運動については地域差の影響も大きく、都市部と地方との格差の改善も課題である。

(委員)

新体力クエストについて YouTube に掲載している内容をアプリ等で一括して見えるようにしてもよいのではないか。

(保健体育課長)

ご指摘の内容について検討してまいりたい。

(委員)

体力向上の意欲づけの取組について地域ごとでばらつきがあるのか。また、参加者はどれくらいか。

(保健体育課長)

いくらか地域ごとでばらつきは見られる。しっかりと周知してまいりたい。マイベストチャレンジ、運動マスター習慣カードともに5,000人以上が参加しており、達成率はマイベストバッジが30%、運動マスターバッジが35%となっている。マイベストバッジは子どもたちが自分の得意な種目で設定してしまいがちであり、点数が伸びず達成率が低いことも考えられるため、伸び代のある自分の苦手な種目で目標を設定することなどを学校へ周知してまいりたい。

(委員)

子どもたちが楽しめるような仕掛けづくりを整備してほしい。

(委員)

体育授業スペシャルサポーター派遣事業の実績はどうか。

(保健体育課長)

サポーターの登録人数は大学生が主で67名、派遣実績は、今のところ23校30学級にトータル300時間程度である。

(委員)

令和4年度ではどうなるのか。

(保健体育課長)

サポーターの登録者数は増加が見込まれる。予算は今年度と同額の予定である。

(委員)

新体力テストは年に1度であり、年度における子どもの成長が分かりにくい。年度途中で何かあってもよいのではないか。

(保健体育課長)

研究してまいりたい。

(教育長)

全国上位である福井県や大分県の取組事例などをしっかりと研究する必要があると考える。

(保健体育課長)

大分県を視察した際に、「授業で運動が好きな子、嫌いな子の分岐点にならないようにしなければならない」というお話をいただいた。

(委員)

大分県ではラグビーワールドカップを誘致して成功している。官民一体となった取組も影響している可能性もあるため、しっかりと研究してほしい。

(委員)

社会教育に絡めたり、遊びと絡めたりするなど、子どもたちに面白い・楽しいと思わせる工夫が重要と考える。

(委員全員)

了 承

以下、非公開のため省略。

閉会